



日野原重明記念

「新老人の会」東京 会報

Keep on going!

Vol.8/No.1

2026.1

伝える

東京藝術大学音楽学部演奏講師
藝大フィルハーモニア管弦楽団ヴィオラ奏者 植村 理一



「音楽には言葉では伝えられない世界がある」日野原重明先生の座右の銘でもありました。「新老人の会」の講演会の後半には音楽会を組み合わせて、との先生のご遺志により、私もたびたび演奏をさせて頂いています。私の父・植村研一は、アメリカで脳神経外科専門医に認定され、聖路加国際病院にて日野原先生と机を並べて臨床、研究をさせて頂きました。父はシヨパンを愛し、今でもピアノを弾いています。そのご縁もあり、日野原先生は私の毎年の東京でのリサイタルにお越しく下さいました。

【感動を伝える】

私は天皇陛下が演奏される楽器、ヴィオラを弾いています。東京藝術大学音楽学部附属音楽高校

は、一学年四十人の一クラスのみ。ヴァイオリン専攻は一学年十人で男は二人。その一人として御茶ノ水のキャンパスへ通っていました。そしてヴィオラに出会い、その豊かな響きに魅了されました。

当時、今の天皇陛下がまだ皇太子でいらした頃に御指南を仰せつかった先生に「ヴィオラってどんな楽器ですか？」と質問すると、先生は何も語らず、演奏させているその楽器をさっと、直接弾かせて下さいました。瞬間！心が感動で震えました。正に言葉ではなく「ヴィオラの魅力」を伝えて頂いた瞬間でした。そして藝大へ進み、アメリカの州立シンシナティ大学音楽院へ全額奨学金と生活費支給を受け留学。世界各国の演奏家の卵たちと一緒に学びました。言葉や文化、人種、宗教を超えて、共にひとつの個性としてお互いの心の動きを感じ、協力して音楽を創っていく。それは言葉の無いコミュニケーション。作曲家の心がタイムマシンのように、時代を超えて私たち演奏家に感動

を伝えてきます。

【生きている魂を伝える】

アメリカ留学を終え、イタリアのフィレンツェのフォネ弦楽四重奏団でヴィオラ奏者としてヨーロッパで十年間演奏してきました。当初、本場で日本人がヨーロッパの音楽を仕事としてやってよいのか？とメンバーに気持ちをぶつけると、「君の国籍ではなく、新しい感性、視点が音楽に新しい命を与えるのだよ」と答えてくれました。演奏は歴史の再現ではなく、「生きている魂の表現を伝えること」なのだともうから鱗でした。

【愛を伝える】

残された六十秒、さて、人は何を伝えるのか。物質的要求、権利の主張、喜怒哀楽の表現、様々な「欲」があります。ある痛ましい飛行機墜落事故で、フライトアテンダントは冷静に状況を説明し続け、乗客はパニックを起こさずに運命を悟り、「愛している」と走り書きのメモを書き留め、電話で幼い子供へ「ママは遠くに行くからパパの言うことを聞いてね」と短いメッセージを残しました。限られた時間にこそ、本当に伝えたいことに気が付くのかも知れません。

【次の世代へ伝える行動】

アップルの創業者、スティーブ・

ジョブズはビジネスで世界の頂点を極め大富豪に。しかし彼は五十六歳という若さでこの世を去りました。晩年、彼は東洋哲学に目覚め、亡くなる直前「大切なのはどれだけ得たか、ではなく、どれだけ与えたか」「飽くなき富への欲求は人格を歪めてしまう。富は墓場へは持っていけない。持っているのは愛する人との幸せな思い出だけだ」

彼は富よりもっと大切なこと、人間関係、芸術、夢に人生を捧げなさいと語りました。テクノロジの進歩は物質的豊かさをもちますが、音楽は心の豊かさを育む「感動」を伝えられるのかも知れません。

【何を伝えるか】

自分の欲求ではなく、次の世代がお互いを大切に慈しむ愛を育み、包まれる心を伝えていく。その行動が創造、即ち創めること。耐えることは「伝える」行動を続けること。私たちひとりひとりが、次の世代の幸せな未来へ何を残せるかを考え行動することが、未来を照らす尊い光の道標となるでしょう。

「新老人の会」の三つの柱を伝える行動は、私にとって次の世代の幸せを願う祈りを込めた演奏です。

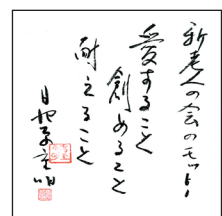
講演とコンサートの集い

アーサー・ビナード氏講演会
「知らなかった、僕らの日本語」

二〇二五年十月十一日 13～16時 ホテル・ルポール麹町 参加者89名



講演中の
アーサー・ビナード氏



雨にも拘わらず満席となった会場。石清水世話人代表の挨拶に続き、「新老人の会」の活動を纏めたDVDを上映、皆で思いを共有しました。

今回の講師は、日本人と異なったものの見方や考え方を、ユーモアを交えて話されるアメリカ人のアーサー・ビナード氏。顧問の早乙女愛氏がご縁を繋いでくださり、今回の講演会が実現しました。

ビナード氏は、アメリカの大学生時代に人との出会いによりイタリア語・タミール語そして日本語を学び、言葉が変わると物事の見方、映り方が変わり、当たり前だと思っていたことが違ってくることに気づかれたそうです。

二十六文字で表す英語と異なり、三種類の文字『ひらがな・カタカナ・莫大な数の漢字』で表す日本語との出会いにより大学卒業と同時に来日。日本に住んでみて、日本語も移り変わっていくことを知り、時間軸から日本語を考えるのと長く生きてこそ分かることがある、それを「新老人の会」の私たちが共有したいと講演が始まりました。

『しゅうかつ』と聞くと、どの漢字を思い浮かべますか。二〇一二年の日経新聞で初めて掲載されたのが就職活動の『就活』。経済活動中心の当時の日本らしい言葉です。しかし、現在では『終活』が語られることが多くなりました。ビナード氏の住む広島で、年四回無料で配布される老人向けの情報誌ではタイトルが、二〇二一年の『今すぐできる終活』から『初めての終活』とときめき終活』そして今夏に至っては『今注目の樹木葬』と変化したとのこと。老人こそ豊かな経験から地球を救うことができるかと思っているのか、『終活』に大切な時間を費やすことなく一日一日をフルに生きたい。人生を豊んでいく

ことは考えないとビナード氏は話されます。これは日野原重明先生の理念にも通じ「新老人の会」の行動目標とも共通する考えだと思いました。

『SDGs』が何の略か、日本語で何を意味しているかとの問いに、会場では正確に答えられた人はいませんでした。世界中で今もこの『SDGs』を語るのは日本とフランスぐらい。教育現場で「今、地球が危ない！」と子どもへの危機感を煽ってこの教育をしているが、実際に今何かを行うための知恵を持ち、財力もある大人は忘れていて、『SDGs』のために、核兵器を含む兵器や原発、ソーラーパネルなどを削減しようとは言わない。

日本語は、ローマ字やアルファベットで書いたり省略したりすることで本質をばやかすことができる。日本人は疑う前にひれ伏してしまうのではないかともしないかとも言われました。

軍歌『海ゆかば』は、万葉集の同伴家持の歌を作者の真意を変え、国家のため



に行動しようと歌わせています。谷川俊太郎氏の『いるか』の詩は、読んだ時の音を楽しみどう受け取るかはそれぞれの人に委ねている。これらの日本の様々な歌や言葉は、時間軸を長くすることで分かることもあると知ってほしいと話されました。

続いて紙芝居を二点。

「紙芝居は、電源もコンセントも必要なく、いつでもどんな場所でも視覚をもって強烈な印象と共に伝えていくことができるメディア」とは早乙女勝元氏の言葉。ビナード氏は、「戦前の紙芝居と今の紙芝居が同じ木枠に入れて見られる。スマホやパソコンのように頻りに機種変更されることもない」と微笑みつつ、先ず一九四四年に高橋五山が国の依頼で作成した『キンタラウノラクカサンブタイ』（金太郎の落下傘部隊）を。一九四二年八月におきた実話だが、実は日本とアメリカの立場は逆であったことが戦後に判明。今年四月、当会の講演会で正置友子先生が語られたプロパガンダとしての絵本が日常生活に入り込むことの怖さを思い出しました。この学びを常に心に留めておかねばと思います。

次に二〇一九年に出版されたビナード氏の『ちっちゃいこえ』。丸木位里氏・俊氏の「原爆の図」を土台に全十五部の連作から絵を選んで切り取り七年がかりで出版されました。主人公は猫。

全ての生命体は放射線・放射物質のダメージを一生背負っていくこと。細胞レベルでじりじりと命を蝕んでいく。ピカの本質を体の中の細胞のちっちゃいこえを通して教えてくれ、私たちがこれから先どうしたら生きていけるかを考えさせられました。

コンサート

植村理一氏（ヴィオラ）と
松田希美氏（ピアノ）による
ヴィオラ・ソロと
ヴィオラ、ピアノ・デュオ

リハーサルで、ビナード氏とお二人の深いご縁が判明。様々なお話を挟みながらの演奏は、日野原先生の平和への思いや人が集い出会うことの意味を深く考える温かな時間となりました。



曲目：
ヴィオラ・ソロ バッハの無伴奏組曲第3番
ピアノとのデュオ 愛の挨拶、グノーのアヴェ・マリア、フォーレ 夢の後に、カヴァレリア・ルスティカーナ間奏曲、日本の歌（夏の思い出、花、浜辺の歌）

初心者のためのスマホ講座⑪

スマホを安心して楽しもう～安全の基本の再確認とAIの世界～

デジタル庁デジタル推進委員
伴 克子（東京会員 福岡在住）



みなさん、こんにちは。デジタル推進委員の伴 克子です。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

スマホって便利だけど「なんだかちょっと心配…」「これって大丈夫かな?」と思うこと、ありますよね。でも、ほんの少しのコツを知っておくだけで、ぐっと安心です。今日はその「安心のコツ」と、最近話題の「AI」のことをお届けします。

① スマホやアプリは新しく保とう

スマホが「更新しますか?」と聞いてきたら、できるだけ早めに「はい」にしましょう。これをそのままにしている方がとても多いです。

この更新には、「壊れにくくする」「守りを強くする」などの大事な修理が入っています。

② パスワードは大切なカギ

スマホの中には、あなたの写真や連絡先、大事な思い出がいっぱい。だから、パスワードはしっかり守りましょう。「1234」や誕生日のように簡単な数字はNG。英語・数字・記号を混ぜるだけでも安全度がアップします。

覚えるのが大変なときは、スマホに入っている「パスワードを覚える機能」を使うと安心です。iPhoneでは「iCloudキーチェーン」、Androidスマートフォンでは「Google パスワードマネージャー」という機能が標準的に使われます。

③ あやしいメッセージには気をつけて

「荷物をお届けします」「登録を更新してください」な

どのメッセージが届いたら、あわてず深呼吸。前回の会報にも書いていますので、たまに見返していただけると嬉しいです。

リンクを押す前に、「本当にこの会社からかな?」と疑うことも大事です。公式のアプリやホームページで確かめましょう。

ここまでの「安心の基本」。でも、スマホは「楽しむ道具」でもあります。最近ではAI（人工知能）という、すごい味方も登場しています。

たとえば、冷蔵庫の材料からレシピを提案してくれたり、旅行の相談に乗ってくれたり、いろんな話を話しかけると答えてくれます。難しく考えずに、ちょっと触ってみると「へえ、便利!おもしろい!」と思えます。AIを使うときも、個人情報やむやみに入れないことだけ意識していればOK。安心して、ちょっとワクワクする世界をのぞいてみましょう。

🏠もっとスマホやAIのことを知りたい方へ

私の本『人生100年時代 おしゃべりAIが最高の相棒になる』（Amazon発売中）では、AIを“話し相手のように”使えるよう、やさしく紹介しています。よかったら、あなたのスマホライフの参考にしてみてくださいね。



初めての句会

飛鳥 蘭

『初めての句会』では十一月に荻窪で吟行句会を催行。荻窪駅から徒歩で回れ、俳人には知られた吟行地です。折しも小春日和で、銀杏、楓、樺、樺等々のもみじを堪能しました。

●掃き寄せし上に次々色葉散る 夢子
※大田黒公園…音楽評論家の大田黒元雄氏屋敷跡地に造られた回遊式庭園。殊に心惹かれたのは大田黒氏の仕事場の煉瓦色の記念館で、氏愛用のスタンウェイのピアノが展示されています。

●鈍色の舶来ピアノ小六月 緑
※荻外荘…一九三七年、政治家近衛文麿が移り住み、当時の政治の場に。文麿の自決の地でもあります。

●神去月荻外荘の彼の客間 宏子

※角川庭園…俳人で角川書店創始者角川源義の旧邸。庭園に面した詩歌室で句会を。

●源義の硯那智黒芒の穂 蘭



○投句について

当季雑詠 二句 いつでも可

メール投句 viridia@icloud.com 水口緑まで

葉書投句 〒168-0006 杉並区 永福4-28-24 飛鳥蘭宛

問合せ先 03-33265-11909

報告 日野原重明記念「新老人の会」 全国連絡会 東京集会

日 時…2025年11月22日(土)13時～20時
会 場…ホテル・ルポール麹町3階
プログラム…講演会 早乙女愛氏「戦後80年目の対話―映像でたどる日野原重明・命の記憶―」
・円卓会議 ・夕食交流会

参加者数…講演会51人・円卓会議31人・夕食交流会34人

二〇一九年、「新老人の会」本部、支部が、ライフ・プランニング・センターから独立した際、ゆるやかな連携を維持したいと「新老人の会」全国連絡会を組織しました。

代表に熊本の小山和作氏、副代表に大阪の三木哲郎氏、事務局は東京の石清水由紀子が担当することになりました。以来七年になりますが、コロナ禍の二〇二二年に、三木副代表のご尽力でZoom会議を開催。翌二〇二三年は東京で集会を、二〇二四年は松本で集会を開催。今回は、三回目の集会となりました。現在も存続している会は二十、今回は十一の会が参加しました。

講演…早乙女愛氏の講演「戦後八十年目の対話―映像でたどる日野原重明・命の記憶―」は、日野原先生が、京都大学医学部の四年生時、七三一部隊の映像と講義を石井中将から受けたこと、戦時中の聖路加国際病院での体験などを具体的に語る映像をもとに、戦争、戦災の実相に迫るものでした。会報四月号で報告させていただきます。

円卓会議…

全国各会から十七人、東京の会から六人が加わり二十三人、傍聴席に八人が参加しました。各会から事前に提出していただいた討議資料をもとに、各会の現状と今後の方向性について意見交換。地域の事情の中で、次世代に平和を発信する活動に話題が集中し、三時間に及ぶ会議となりました。

今後、Zoom会議ではなく、集会をとの要望があり、来年は、鹿児島で開催することが決まりました。

夕食交流会…

全国の各会と東京の会から合わせて三十四人が参加、「新老人の会」の理念のもとに活動している皆様が一堂に会することの意義を再認識しました。最後に集合写真を撮って「来年は鹿児島でお会いしましょう」と、散会しました。



今年度の世話人会の体制

「新老人の会」は、二〇〇〇年の創設から四半世紀、そして、二〇一九年一月に「新老人の会」東京として独立してから八年目を迎えております。これもひとえに、会員の皆様のご理解、ご協力があってのことと、心より感謝申し上げます。

顧問をお願いしております七人の先生方には、会報の巻頭言のご執筆や講演をしていただくなど、ご支援、ご協力をいただいております。

加藤登紀子、香山リカ、川越厚、早乙女愛、日野原眞紀、家森幸男、湯川れい子
(五十音順、敬称略)

世話人は、次の十五人の方々です。二〇二五年一月、牧壮氏が高齢により辞任されたため、新たに大室章氏に加わっていただきました。

世話人代表 石清水由紀子

副代表 水口緑

監事 本田愛子

事務局 荻沼清子 / 端千枝

広報 五百木幸子

幾田恵理子、入江眞知子、大室章、黒田かほる、小泉靖子、沼田祥子、野口浩子、藤原妙子、宮川ユリ子
(五十音順)

二〇二六年度も、このような世話人会の体制で、「新老人の会」の趣旨に沿った活動を展開して参ります。ご意見、ご要望がございましたら、Eメール、ハガキでお知らせください。

以上、どうぞ、よろしくお願いいたします。

編集後記

お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今も戦禍や自然災害に苦しむ人々に想いを馳せ、一日も早く穏やかな日常が戻ることをお祈りいたします。

先ず、春の企画として、3月26日(木)に花見を兼ねた東京の「はとバスツアー」を企画しました。毎年開催している「能楽鑑賞会」は、6月24日(水)に実施します。参加ご希望の方は、同封のチラシに沿ってお申し込みください。

今年も、会の趣旨に沿った魅力的な活動を展開しますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

「新老人の会」東京

2025年(11月現在) 会員数156人(144件)
2024年 会員数220人(188件)

会員募集中!

年会費

個人・家族会員 5,000円
賛助会員 (一口) 10,000円